

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2001-1008	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホート調査の参加者のうち家族役割が「父、父方祖父、父方祖母」、「母、母方祖父、母方祖母」として登録された方 試料:なし 情報:年齢、性別、喫煙歴、家族との同居の有無、血液検査データ、家族の続柄情報、既往歴	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	竹田総合病院	
研究題目	成人日本人から構成されるトリオにおけるヘマトクリットの親子間関連の研究			研究期間	2021年9月～2023年3月	
実施責任者	栗山 進一	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授
研究目的と意義	本研究は、子と両親からなる三人組(トリオ)を対象とした研究です。本研究の目的は、成人日本人から構成されるトリオにおいて、子、親の性別によって親子関係を分類し、ヘマトクリット(HCT)の親子間関連を検討することです。					
研究計画概要	初めに統計解析によって、家族役割が父、および母の HCT と関連する因子を単変量解析によって調べます。例えば、HCT は加齢によって減少することが知られていて、高齢になると貧血になるという報告があります。この報告に基づけば、本研究の解析では HCT と年齢に負の相関係数があるとなるはずですが。このように HCT と関連がある因子を1つ1つ調べていくのが本研究の単変量解析の目的です。この解析で特定された因子を含めて多変量解析と呼ばれる様々な因子を考慮できる解析手法を用いて、「父、父方祖父、父方祖母」および「母、母方祖父、母方祖母」の親子間の HCT に関連があるかどうかを解析します。多変量解析によって、関連がある因子のうち HCT を決定するのにどの因子が大きく寄与しているかを調べることができます。しかし、従来の多変量解析によって明らかになった親子間の HCT の関連は、本来は関連していないのに誤って関連があると判断してしまういわゆる偽陽性の可能性があります。本研究ではこの関連が偽陽性かどうかを確かめるために、ランダム家族法と呼ばれる手法を使います。ランダム家族法は、親子間の続柄の結びつきのないデータセットを作成することで続柄に特有の関連であるかを統計的に判定する方法です。この研究の結果は、健診における家族歴の聴取と検査項目の選択、血液疾患を有する患者さんの問診における家族歴の聴取、患者さんのお子さんに対する治療・予防をどうするか決定などに寄与する可能性があります。					
期待される成果	貧血や多血を呈する疾患の中には遺伝性が指摘されているものが存在しており、HCTの遺伝メカニズムを解明することは、これらの疾患の病態解明のみならず、予防、治療に資する可能性があります。					
これまでの倫理 審査等の経過	2021年9月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	・人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針及び別途締結する研究契約を遵守して研究を遂行します。 ・利用する情報は、セキュリティが担保された媒体にて竹田総合病院に提供されますが、本情報には遺伝子情報や個人情報を含みません。竹田総合病院は機構の定めるセキュリティ分類(スタンダード)に関するセキュリティ実施ポリシーに則ってデータを管理します。					
その他特記事項	大学運営資金					
* 公開日	令和3年9月28日					